

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300014		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホーム みすず		
所在地	岡山県津山市瓜生原326-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山県岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和3年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の食事を栄養面の他、旬の食材や利用者様の嗜好、ニーズに随時、臨機応変に提供出来ています。看護師や主治医との連携は24時間連絡体制がとれており、安心、安全な生活が送れるような体制である。日々の生活の中でできる限り、体調や気分にも考慮し個々のリズムに合わせ生活が送れるよう工夫しています。

また、外出など個人のニーズに合わせ個別ケアをしています。生活の場面でレクレーションを通じて一緒に食事作りを行っています。本人様の心身状態に応じて掃除・洗濯・片付けなど場面に応じた役割を持っていただいています。職員が働きやすい職場作りに努めています。職員一人一人の働き方、労働時間や人数等配置、夜勤回数等できる限り配慮できるよう努めています。リフレッシュできるよう有給休暇はできる限り消化していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人の理念「安心できる居場所づくり、支えあう関係づくり、チャレンジできるステージづくりをすすめ、共生社会の実現を目指します」の下、常に前向きに一つ一つ丁寧な対応で入居者の笑顔、職員の思いやりが溢れる穏やかな時間の流れを感じることができるグループホームです。管理者は職員の個性を大切に、その力を引き出しながら、管理者・職員が一つになって入居者に寄り添ったケアの実施に努めている様子が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員がいつでも見ることができる場所へ掲示してある。また、理念だけでなく具体的な行動指針も掲示、職員一人一人に配布している。みずずを訪れた方が安心・やすらぎを感じて頂けるよう職員、皆努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、理念を具体化し、職務行動指針を作成して、実践と共有に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との交流は出来ていない。	コロナ禍で出来る範囲で敷地内の法人施設との交流が行われています。敬老会には地域の小学生の作品が届けられ、法人施設との交流が地域交流にも繋がっている様子が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は現状出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進会議は出来ていないが便利にてご家族様へみずずでの活動内容、苦情、事故、ヒヤリハットを毎月報告し、ご意見が頂けるよう努めている。	コロナ禍で出来るだけ以前の会議に類似した内容で関係者に文書で報告等しながら協力を仰いでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域推進会議や外部研修等は出来ていないが書面やメールにて津山市から情報は頂いています。質問があれば津山市へ電話で尋ねたり直接伺ったりと連携・協力関係の構築に努めている。	介護サービスだけに関わらず、他課とも連携を図っています。不明なことなどがあればいつでも相談できる体制づくりに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の尊厳と主体性尊重し、拘束を安易に正当化することなく職員一人ひとりが理解を持ち、身体拘束しないケアに努めます。職員、資質向上の為施設内で研修を行っている。	勉強会を開催し身体拘束に関する認識も職員間でも共有ができています。身体拘束に關してのマニュアルも作成し、身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に関する方針を作成し、身体拘束適正化委員会を設けて身体拘束、虐待の研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在までに行えていないが事業や制度についての学ぶ機会を持ち、活用できるように努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に管理者より、契約と共に説明し同意を得ている。内容に変更等あれば速やかに説明し理解、納得ののち同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者様やご家族様の発言や行動から意見・要望を抽出。日々の生活の中でも職員からの気づきを申し送りにて意見交換し運営に反映している。	入居者から外出先や食事について意見が多く聞かれ職員間で共有し実践に繋げています。また、家族からの意見や要望は、コロナ禍ということもあり、LINEを活用しスピーディな対応に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議をまとめて行うことが難しい状況の為、少人数での実施している。職員の意見や提案は日々の業務で随時、意見・提案を聞いている。管理者同士意見交換や管理者から代表者へ報告している。	職員会議で話し合い対応するなど随時意見を運営に反映するよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、または本人より代表者へ給与水準、勤務状況、その他相談は行っている。職員の努力や実績、資格取得等進め、向上心やりがいをもって働きやすい就業環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ネットにて研修を行っている。自分が学びたいスキルを優先し集団研修でなく個別で実施している。時期や状況に応じても勉強してほしいものは全職員へトレーニング資料を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為相互訪問等はできなかった。隣接している他事業所との活動は数回行えた。柵原地区の同業者からのネットワークづくりもできており随時相互に相談できている。相互活動が向上できる活動は今後も検討をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の訴えは直ちに管理者に伝え、管理者からご家族の方へ随時連絡が行えており、ご本人様、ご家族の要望に添って改善に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階から常時、ご家族の意向を伺いながら関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階でメリットやデメリット等を見極め提案、相談し適切な支援やサービス利用が出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事をして頂きながら、役割を持って頂けるよう努めています。利用者様同士お互いに声を掛け合い、助け合える関係性が築けるよう努めている。テーブルの配置には特に留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の思いや状態を伝えたり、ご家族様の思い状態を聞くことで、ご家族様と共に支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで住み慣れた地域や自宅周辺なじみの場所へ行っています。なじみの方からの面会等もコロナの状況で難しい場面もあるが、関係が途切れないよう努めています。	個別の外出支援を行っています。自宅を見に行ったり 時間を変え夕方に出かけたり、その時々で入居者にあつた場所への外出援助や関係構築に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの内容に応じて場所を変えたり、一緒に参加出来るよう努めています。利用者様同士がスムーズに会話出来るように、時に職員が間に入り、円滑なコミュニケーションが取れるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の相談等あれば、対応、ご支援致します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご意向を伺えるよう努めている。身体状況や認知症により困難な場合もあるがQOLの低下を防止すべく日々努めている。	入居者・家族の意向を確認し、実践に繋がっています。入居者の思いや意向は、それぞれ担当職員に報告して情報を共有しながら、支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様やケアマネージャーなどからできる限り情報を提供して頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中での気付いたことや状態の変化は都度申し送りで情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員集まったの会議は行っていないが日々の生活の中や往診時、訪問看護来所時に随時生活課題の解決に向け情報共有をしている。積み重ねたものを現状に即した介護計画へ反映できている。	日々の申し送り時にカンファレンスを行い、職員とケアマネージャーでプラン原案を作成し、職員会議で話し合い確認や変更、モニタリングを行って、その人らしい暮らしのケアプランの作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細な記録に努め情報が共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化があればその都度状況に応じた支援、サービスができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの感染状況をみながら判断し、人混みを避けた場所への外出やドライブを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで異常の早期発見に努め、変化があれば主治医へすみやかに連絡をし適切な医療を受けられるように支援している。	連携している主治医は24時間体制で、往診と緊急時の対応が可能です。他の医療機関への受診希望は、家族の協力も得ながら行っています。週1回は訪問看護師の訪問もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護で見て頂く。一週間の状態報告をし、看護師の指示及び、主治医との連携を図り受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、情報提供書をすみやかに作成し、情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時事前にご家族様の要望をお聞きしている。状態変化がある際にはその都度要望の確認を改めて行うことで、方針を共有し支援を行っている。	家族の希望に添った看取りケアを行っています。看取りケアを行うにあたり、家族とも連絡を密に取り合いながら、重度化、終末期に向けた対応に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急手当や事故の際の連絡マニュアルはできている。喉に詰まったときの対応など行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定火災訓練を実施した。避難訓練に参加出来ない職員にもマニュアルや反省などの情報共有を行った。	法人全体と施設単独でも避難訓練を行っています。ハザードマップも参考にしながら、どこが安全かを話し合い検討しています。災害時に備え、備蓄の準備もしています。	想定外の災害にも備えて、準備や訓練を行い、法人全体と地域も含め、助け合える関係ができることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人的な話を職員が大きな声で話す場面もあり配慮すべき点がある。申し送り時は声のボリュームやA様等、隠語を使うなどし、配慮に心がけている。入浴時など、カーテンを利用し、プライバシー保護に努めています。	名前の呼び方には、個々の心情を汲み取り、入居者が安心感を得られる呼び方を行っています。会話の中でも話し方に工夫をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない日常会話の中からお本人様の思いや希望を表せるよう努めている。自己決定しやすいよう選択肢を提供するなど努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転しないよう生活のリズムを意図的につくりたいといけない場面もあるが、できる限り本人様が部屋にいたいときは部屋で休んだりできるよう支援している。入浴も気分に応じて気持ち良く入浴できるよう本人様のペースに心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で化粧水をされない方には施設にて入浴後の化粧水にて身だしなみを整えている。洗濯は毎日行い清潔に努めている。時々レクレーションとしてお化粧をしたりマニキュアをぬったり髪飾りをつけたりおしゃれができる支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事に合わせた料理を提供したり、食べたいものを聞いたりしている。時々、野菜を刻んで頂いたり等調理の準備を、一緒に行っている。後片付けはお膳を持って行ける方は下膳していただき、台拭きやお膳を手伝って頂いています。	その日によってメニューが変わる(入居者のリクエストも含め)こともあり、食事の楽しさへの支援が窺えます。ユニット毎にメニューが違い、毎回手作りの食事が提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減や栄養状態、健康状態に応じて一人ひとりに合った食事形態、量で提供し、栄養バランス、水分量を確保出来るようにしています。また、主治医の指示や栄養士へ栄養補助食品の助言を求めるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けタイミングなどは個々に合わせた支援を徹底してる。義歯については毎週ポリデント施行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行っています。夜間もトイレで排泄出来るよう一人一人に合った時間に声かけ・誘導を行っています。	一人一人に合わせた対応でそれぞれの習慣やその日の体調など見極め、排泄用品等使用しながら個々に応じた排泄支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操をして身体を動かす時間を設けています。水分摂取量に注意し、摂取しにくい場合は飲料の種類や形状を代えて提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日のご利用者様の体調に合わせて、無理のない入浴が出来るように支援しています。	重度の方も入浴が出来るよう、リフト浴も設置されています。利用者の状態 体調等に合わせた入浴対応に努め、入浴ができない時は、清拭や足浴の対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の気持ちや思いを尊重し、安心して過ごして頂けるよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備・声かけ・飲み残しが無いか確認し、ご利用者様が正しく服用出来るよう手伝いをしています。薬の内容や副作用があるか、情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活に必要な介助だけでなく、ご本人が自分で出来るような支援やメンタルケアを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時期にはドライブ外出にお誘いし、希望があればその場所へお連れするようにしています。天気が良ければテーブルを外に出して外で昼食を摂ったりして気分転換や外出支援をしています。	ドライブに出掛けたり、庭に出て季節の花を見たり、散歩するなど、入居者個々に、気分転換や楽しむことができる外出支援に対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナも少し落ち着いて、少しずつ外出出来るようになりました。ドライブに出かけた時にはご自分でおやつを選ばれ預かり金で支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望があれば、いつでも電話でお話したり手紙のやりとりが出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのテーブル・壁・廊下には四季を感じられるように手作りの作品・花などを飾り、ご利用者様が居心地良く過ごせるよう心掛けています。	木のぬくもりがあり、落ち着いた雰囲気になっており、窓も多く閉塞感がなく、ホールや廊下には、行事等の思い出の写真や、皆で作成した工作が飾られており、入居者の生活感が感じられるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士、和やかに楽しくお話し出来るようにテーブルの席など配慮し配置を考えています。ソファや畳スペースも設置し、利用頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を使用したり家族の写真や家族手作りの飾りを飾ったりし、自宅のような空間作りを工夫しています。	居室には家族の写真を飾ったり個々の居室作りがされています。ベッドは備え付けですが、希望に応じて畳で寝ることができるような対応もされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札や分かりやすい目印を付け、必要に応じて見守り、声かけや付き添いを行っています。		